

山口大学入試広報への繰返し参加が出願に与える影響 —説明会の複数年参加による志願者の状況—

竹本 真理恵
林 寛 子

要旨

本稿では高校 2 年生で説明会に参加した学生を追跡し、合格に至るまでの状況进行分析した。高校 2 年生で説明会に参加しただけでは出願までに至らず、高校 2 年生、3 年生と連続して説明会に参加した学生の出願率は高いことが明らかとなった。山口大学の入試広報は、早い段階から接触をしてきた学生をいかにして第一志望校のまま留めることができるかが今後の鍵となる。

キーワード

入試広報，進学説明会，追跡調査，オンライン

1 はじめに

旺文社教育情報センターによると、2024 年度の大学入学定員は63.6万人、受験者数は64.7万人、その差は1.1万人程度で、過去50年の日本の大学入試の歴史の中で、これほど両者が接近したことはない（旺文社教育情報センター，2024）。また、文部科学省が発表した「令和6年度学校基本調査（確定値）」によると、高等学校在学者数が前年度より1万2千人減少しており、290万7千人であった（文部科学省，2024）。今後、さらに少子化の影響が大学の存続に大きく影響してくる。

山口大学においても、大学入学共通テスト（以下共通テストという）受験者減少幅ほどの減少ではないが、志願倍率は徐々に右肩下がり傾向にあり、今後の志願者獲得に向けての検討が最重要課題となっている。

志願者獲得に向けて、大学は志願者に対して魅力ある広報を行うことが重要である。しかし、国立大学志望者の中には、共通テスト

の結果で志望大学を変更せざるを得ない受験者もいる。山口大学が新入生に対して入学後に実施する「受験時の状況に関する調査」でも前期日程で3割、後期日程で5割が共通テスト自己採点終了以降に志望大学を決定していることが明らかになっており（山口大学アドミッションセンター，2024）、志望大学と受験大学が異なる学生も多い。しかし、第1志望大学に合格することを目指し、少しでも情報を収集し、受験に臨む学生は、オープンキャンパス等の大学主催の説明会に参加をし、自身に有益な情報を得て受験に臨んでいる。

一之瀬ら（2023）は、説明会に参加した者が出願したかどうかの追跡を単年度において追跡し、オンライン・対面ともに説明会の参加者は出願率が高いことを明らかにしている。この一之瀬らの論文を基に、山口大学においても、説明会参加者と出願者の状況についての分析を行い、説明会参加者は出願に繋がること、特別選抜志願者や専門学科の学生は、出願傾向が高いことを明らかにした（竹

本ら、2023）。この分析では、高校3年生の出願動向を追跡するため、説明会参加者データには高校2年生以下の参加者も高校3年生と同程度いたが、高校2年生の分析は今後の分析とした。

そこで本稿では高校2年生から説明会に参加する者に注目し、令和4年度説明会に高校2年生で参加した者と令和5年度説明会に高

校3年生で参加した者のデータを繋げ、令和4年度説明会に参加した者、令和5年度説明会に参加した者、令和4年度と5年度両方の説明会に参加した者とで、説明会参加者と説明会不参加者に出願の違いがあるのかを明らかにし、今後の入試広報に資することを目的とする。

表1 山口大学が開催した説明会と参加者

年度	開催イベント名	時期	形態	高校1年	高校2年	高校3年	既卒生他	その他	参加人数
令和4年度	ガイダンスセミナー	4月	来場型	4	41	54		1	100
	個別相談会	8月	オンライン			59			59
	大学説明会	9月	オンライン	7	15	105	3	1	131
	大学説明会	11月	オンライン	3	27	113	4	3	150
	大学説明会	12月	オンライン	3	10	65	2		80
	出願直前説明会	1月	オンライン		1	98	13	2	114
	来場型オープンキャンパス	8月	来場型	300	551	934	20	32	1,837
	オンラインオープンキャンパス	8月	オンライン	521	812	876	60	49	2,318
令和5年度	ガイダンスセミナー	4月	来場型	3	46	71		11	131
	先輩に聞く！	6月	オンライン	5	18	165	4	10	202
	先輩に聞く！	7月	オンライン		16	115	2	5	138
	先輩に聞く！	8月	オンライン		3	81	1	1	87
	個別相談会	8月	オンライン			29			29
	大学説明会	10月	オンライン	1	14	107	1	5	140
	大学説明会	12月	オンライン	12	25	11	1	3	52
	出願直前説明会	1月	オンライン		1	92	4	6	104
	来場型オープンキャンパス	8月	来場型	607	1,273	1,430	43	344	3,697
	オンラインオープンキャンパス	8月	オンライン	328	423	500	46	74	1,371
令和4年度説明会参加者合計				838	1,457	2,304	102	88	4,789
令和5年度説明会参加者合計				956	1,819	2,601	102	459	5,951
令和4年度と令和5年度説明会参加者合計				1,794	3,276	4,905	204	547	10,740

2 入試広報参加者の追跡

2.1 令和4年度・令和5年度の山口大学主催の入試広報

令和4年度と令和5年度の山口大学主催の入試広報イベントは表1のとおりである¹⁾。令和5年度、新たに「先輩に聞く！山口大学の総合型・学校推薦型選抜」説明会をオンラインで開催した（月1から2回開催）。この説明会は主に総合型選抜・学校推薦型選抜を検討している学生に、山口大学の教育の特色や入試制度・入試状況の説明を行っている。この説明会の最大のポイントは、総合型選抜、学校推薦型選抜で入学してきた学生によ

る自身の志望動機や受験対策、入学後の学生生活を語ってもらうことである。身近な成功体験を視聴することで、志願者が意欲と自信を持って特別選抜に出願できるように企画した。この説明会では、どの時期も高校3年生を中心に、多くの学生が参加をしており、特別選抜出願者の関心の高さが伺える。

開催した説明会の令和4年度と令和5年度を比較してみると、オープンキャンパスに大きな特徴がある。令和4年度オープンキャンパスでは、コロナ禍であったため、来場者を大幅に制限していた。従って、来場型オープンキャンパスの参加者が1,837人、オンラインオープンキャンパスが2,318人であった。

令和 5 年度の来場型オープンキャンパスは、人数制限は設けているものの、制限人数を拡大し、できるだけ来場型への参加を促した。結果、来場型の参加人数が 2 倍となり、オンラインが約半分となった。参加者の高校生も自ら足を運び、直接大学に触れることの出来る来場型を望む傾向にある。

令和 4 年度、5 年度ともに高校 3 年生を中心に、多くの高校生達が説明会に参加しており、高校生の興味・関心の高さが伺えた。

2.2 分析対象者とデータの収集

各説明会の申込は、企業が提供している来場者管理システムを利用している。この来場者管理システムの氏名と高校コードを組合せ、出願者データと繋いだ（竹本ら、2023）。本稿では高校 2 年生から説明会に参加する者に注目するため、表 1 で示した説明会に参加した者のうち、令和 4 年度の高校 2 年生参加者 1,457 人を追跡対象者とした。加えて、令和 5 年度の参加者のうち高校 3 年生、既卒生、卒業認定者等、令和 6 年度入試に出願可能な 2,703 人を追跡対象者とした²⁾。令和 6 年度入試の全体の志願者数は 6,198 人（表 2）で、この全志願者と「説明会参加で不出願」の 1,932 人（表 3）の合計 8,130 人を本分析対象者とした。

ここで、令和 6 年度入試状況をまとめておく。令和 6 年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の志願者数と志願倍率は表 2 のとおりである。志願者数は 6,198 人で志願倍率は 3.3 倍であった。志願者の入試区分は図 1 のとおりである。志願者の入試区分は一般選抜が 84%、特別選抜が 16%となっている。

本分析では、竹本ら（2023）と同様、分析に用いる変数を出身高校の所在地、高校の学科、高校の偏差値、可否とした（竹本ら、2023）。ただし、高校の学科においては、普通科、理数科、農業科、工業科、商業科、総合学科、その他の学科の区分けを、本稿にお

いては普通科・理数科、専門学科・総合学科、その他の学科とした。また、年度による区分を加え、年度による変化を確認した。

偏差値については「みんなの高校情報」のサイト情報を基に、記載されている各高校の学科の中で一番高い偏差値を利用する。定時制、通信制、中高一貫校等、偏差値の記載のない高校は欠損とし、4 段階に区分した（竹本ら、2023）。

表 2 入試区分別志願者数と志願倍率

	募集 人員	志願 者数	受験 者数	合格 者数	志願 倍率
総合型選抜	114	350	267	114	3.1
学校推薦型選抜 I	122	254	254	121	2.1
学校推薦型選抜 II	194	410	408	161	2.1
前期日程	1,170	2,536	2,276	1,308	2.2
後期日程	319	2,648	770	401	8.3
合計	1,919	6,198	3,975	2,105	3.3

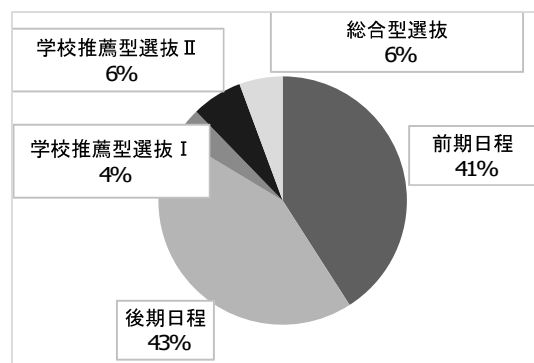


図 1 志願者の入試区分

2.3 説明会参加者と志願者の傾向

分析を行うにあたり、表 1 の説明会を整理した。説明会をガイダンスセミナー、オンライン説明会、オープンキャンパスの 3 つの区分に分け、それぞれ令和 4 年度のみ参加、令和 5 年度のみ参加、令和 4 年と令和 5 年両方参加とに区分した。区分ごとの説明会参加者延べ数、出願者数、不出願者数、参加者の出願率は表 3 のとおりである。

山口大学の説明会に複数回参加で不出願の者及び複数の入試に出願した者は、参加者データが重複して繋がっている。そのため、参加者延べ数は3,624人となる。説明会参加者の出願者数は1,692人で、参加者の出願率は全体で46.7%であった。ガイダンスセミナー、オンライン説明会、オープンキャンパスともに令和4年度のみ参加者は出願率が極めて低く、令和4年度のみ参加の全体出願率は20.3%であった。オープンキャンパスにおいては、夏休みの課題等で参加を促す高校も多く、課題をクリアするために志願を考えていない近隣大学のオープンキャンパスに参加をする傾向にあるのではないと思われる。また、一度は参加したものの、その後の進路選択で候補から外れていくことも考えられる。一方で、令和4年度と令和5年度両方も説明会に参加をして出願した者の出願率は全体で73.0%であった。2年連続して説明会に参加している者は、山口大学への関心が高く、出願に繋がりやすい。

説明会参加者と志願者の出身高校地域は図2のとおりである。山口県からの説明会参加者が30%程度で、近県が15%程度であった。山口県から遠い地域でも参加があり、オンラインでのオープンキャンパスやオンライン説明会参加者が多数を占める。その割合は多くはないが、全国から参加している状況である。しかし、山口県の志願者は23.0%であった。山口県では説明会に参加する割合は高いが、出願に至らない者の割合が高かった。広島県、近畿地方、その他全国では説明会参加者よりも志願者の割合が高かった。

説明会参加者と志願者の高校の学科の割合は図3のとおりである。説明会参加者、志願者ともに9割近くが普通科・理数科であった。専門学科・総合学科での説明会参加者、志願者はともに商業科の割合が高かった。説明会参加者と志願者の高校の学科に大きな違いはない。

次に説明会参加者と志願者全体の偏差値は図4のとおりである。志願者の偏差値は60 - 69の割合が57.1%と最も多く、偏差値70以上も1割を占めている。説明会参加者の偏差値も60 - 69の割合が47.1%と一番高かったが、志願者と比べると10%低かった。総合的にみると、説明会参加者の偏差値の方が志願者の偏差値よりも偏差値帯が低い傾向にあった。

表3 説明会参加人数と出願率

		延べ参加者数	延べ出願者数	延べ不出願者数	延べ参加者の出願率(%)
ガイダンスセミナー	令和4年度	41	4	37	9.8
	令和5年度	90	59	31	65.6
	令和4年度と令和5年度	1	1	0	100.0
オンライン説明会	令和4年度	97	26	71	26.8
	令和5年度	609	465	144	76.4
	令和4年度と令和5年度	69	59	10	85.5
オープンキャンパス	令和4年度	1,124	264	860	23.5
	令和5年度	1,749	978	771	55.9
	令和4年度と令和5年度	380	277	103	72.9
山大広報参加合計	令和4年度	1,165	236	929	20.3
	令和5年度	1,967	1,097	870	55.8
	令和4年度と令和5年度	492	359	133	73.0
合計		3,624	1,692	1,932	46.7

※ 延べ参加者の出願率

$$= \text{延べ出願者数} / \text{延べ参加者数} \times 100$$

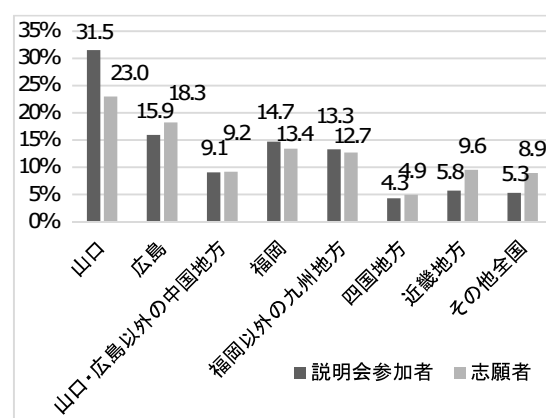


図2 説明会参加者と志願者の出身高校地域別割合の比較

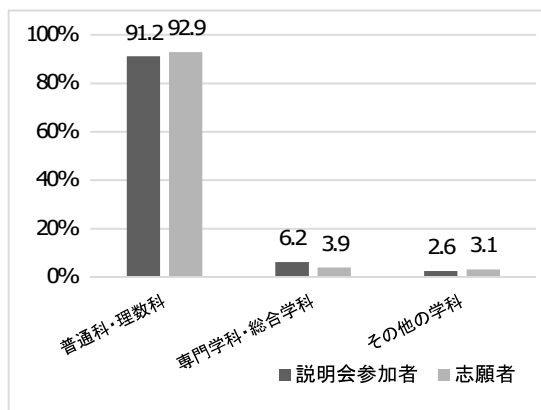


図 3 説明会参加者と志願者の高校の学科別割合の比較

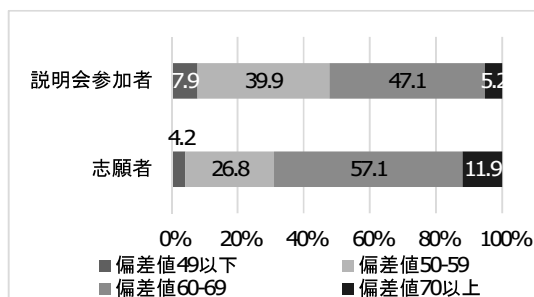


図 4 説明会参加者と志願者の偏差値

3 説明会参加者の出願の有無

3.1 説明会参加者の出願の有無

次に、説明会参加者を参加年度別にみるとどのような違いがあるのかを確認する。説明会参加者の参加年度別出願の有無は図 5 のとおりである。令和 4 年度のみ参加者の出願率は 20.3% と低かった。しかし、令和 4 年度のみ参加では低いが、令和 4 年度と令和 5 年度両方参加の出願率は 73.0% と高かった。2 年連続で説明会に参加した者は出願に繋がっている。令和 5 年度のみ説明会参加者の出願割合も 55.8% と、半分以上が出願している。高校 3 年生に参加をする者は、出願を意識して説明会に参加をしていると推測できる。

出願の有無を出身高校地域別、参加年度別にみたものが図 6 である。令和 4 年度と令和

5 年度両方参加して出願している者は山口県、福岡県以外の九州地方、近畿地方で 8 割近くが出願している。山口県に近い広島県では 2 年連続で説明会に参加しているにもかかわらず、出願率が 56.2% と低かった。令和 5 年度のみ参加で出願している者の地域に大きな違いはなく、半数程度が出願をしていた。

次に高校の学科別の説明会参加年度別出願の有無を示したものが図 7 である。専門学科・総合学科の令和 4 年度のみ参加で出願している者が 4.3% と非常に低く、令和 5 年度に参加、または 2 年連続して参加をしている者の出願率が高かった。専門学科・総合学科の志願者は高校 2 年時の参加だけでは出願に結びつかない傾向がある。どの学科も令和 4 年度と令和 5 年度両方説明会に参加している者の出願率は 7 割以上と高かった。また、令和 5 年度のみ参加の者も半数以上が説明会に参加し、出願している。高校 3 年生での参加は、出願に結び付く傾向がある。

次に参加年度別出願の有無別高校の偏差値は図 8 のとおりである。令和 4 年度のみ説明会参加で出願した者の偏差値は 60-69 の偏差値帯で 67.4% であった。令和 4 年度のみ説明会参加で出願した者は偏差値が高く、偏差値 49 以下で出願した者の割合が低かった。他の年度での出願、不出願に大きな差はなかった。

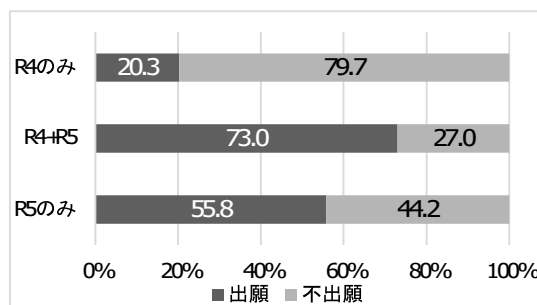


図 5 参加年度別出願の有無

※ R4 のみ : 令和 4 年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和 4 年度と令和 5 年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和 5 年度のみ説明会参加者

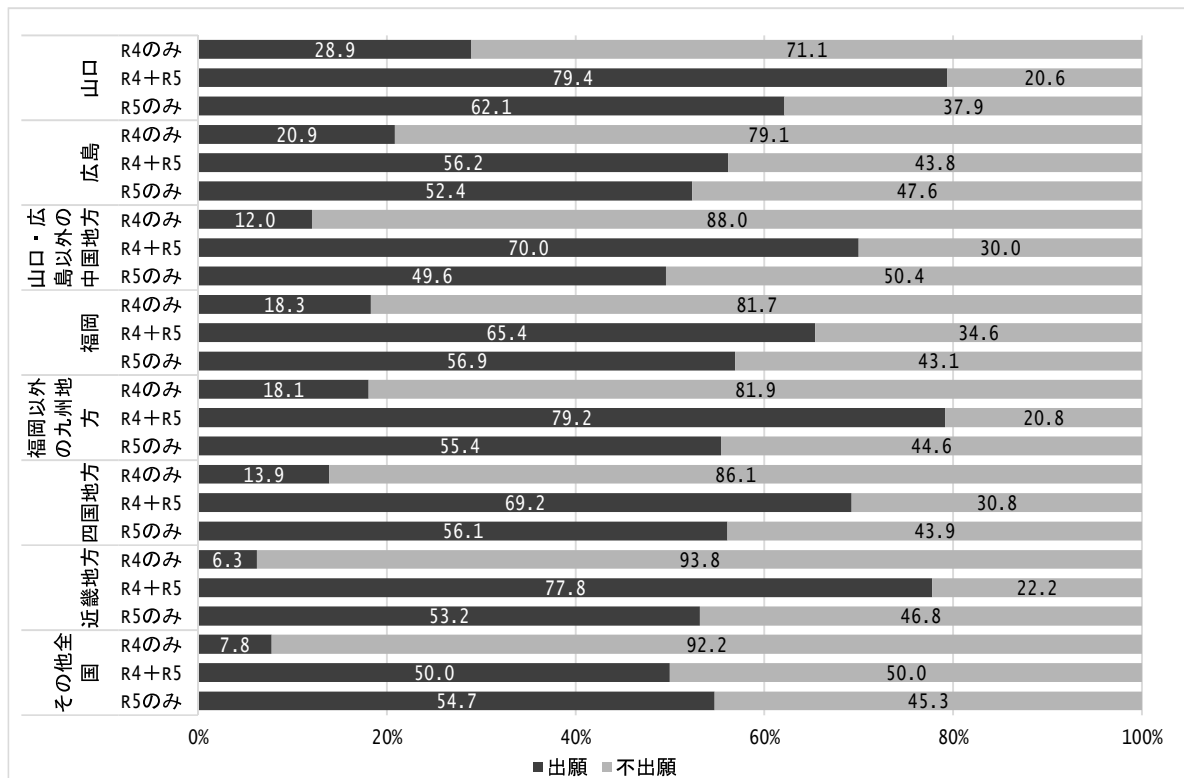


図 6 出身高校地域別参加年度別出願の有無

※ R4 のみ : 令和 4 年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和 4 年度と令和 5 年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和 5 年度のみ説明会参加者

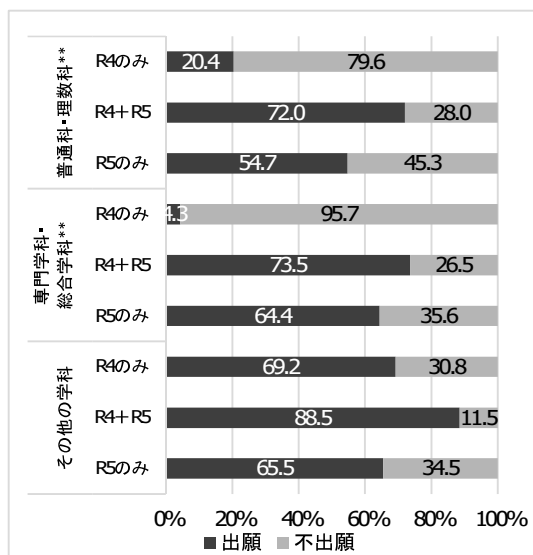


図 7 高校の学科別参加年度別出願の有無

※ R4 のみ : 令和 4 年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和 4 年度と令和 5 年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和 5 年度のみ説明会参加者

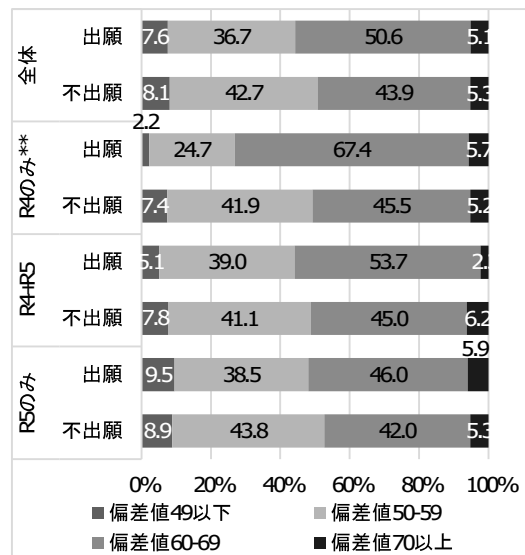


図 8 参加年度別出願の有無別高校の偏差値

※ R4 のみ : 令和 4 年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和 4 年度と令和 5 年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和 5 年度のみ説明会参加者

4 志願者の状況

4.1 志願者の説明会参加状況

志願者の説明会参加の有無別入試区分は図9のとおりである。令和4年度と令和5年度両方説明会に参加している者、令和5年度のみ説明会に参加している者は学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱ、総合型選抜での出願が多かった。特別選抜においては、説明会に参加し、大学の情報を得てから出願する傾向にあるが、高校2年時（令和4年度）のみ説明会参加の者は出願には繋がっていない。

次に参加者の有無別出身高校地域を確認する（図10）。山口県では5割近くが令和4年度のみ、令和4年度と令和5年度両方参加をしていた。令和5年度のみ参加者は、山口県以外の地域が多かった。説明会不参加者は、どの地域においても大きな差はなかった。参加の有無別高校の学科（図11）では、専門学科・総合学科において、令和4年度と令和5年度両方説明会に参加、令和5年度のみ説明会参加の割合が説明会不参加者よりも高かった。特に、商業科において2年連続参加している割合が高い傾向にある。専門学科から大学進学を目指している学生は、説明会に参加し、大学の情報を得ることで、受験時に有益となるように大学研究を行っている。

次に参加の有無別高校の偏差値は図12のとおりである。令和4年のみ説明会参加で出願している者の偏差値60・69の割合が67.4%と高く、偏差値49以下の割合が2.2%と低かった。令和4年度と5年度両方参加、令和5年度のみ参加者は、偏差値50・59の割合が高く、偏差値49以下の割合も令和4年度のみ参加、不参加よりも高い。令和4年度（高校2年時）のみ参加で出願した者は、偏差値の高い者の割合が大きいことがわかった。このことから、説明会に参加したものの、さらに偏差値の高い大学を目指した可能性が高いと推測できる。高校2年生は受験まで1年以上あ

り、さらなる高みを目指して努力し、志望大学を変更した可能性がある。

志願者の説明会参加状況としては高校3年生時（令和5年度）と2年連続で説明会に参加している者は出願率が高く、高校2年時（令和4年度）にしか説明会に参加していない者は出願率が低かった。

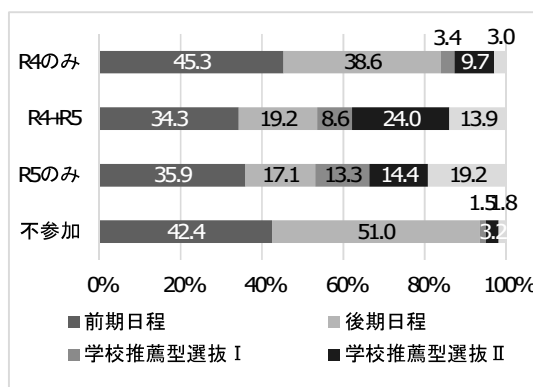


図9 説明会参加の有無別入試区分

$\chi^2 = 1490.636$ $df=12$ $P=0.000$
 ※ R4のみ：令和4年度のみ説明会参加者
 R4 + R5：令和4年度と令和5年度説明会参加者
 R5のみ：令和5年度のみ説明会参加者

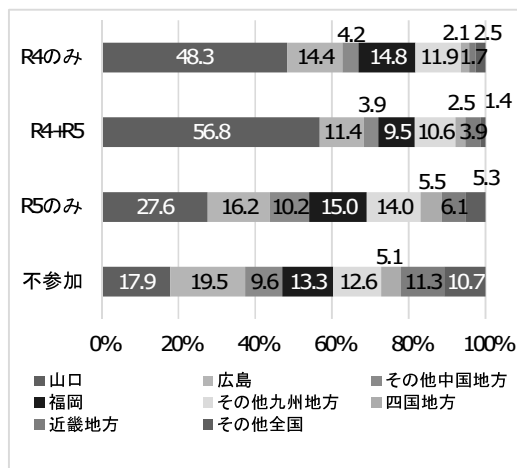


図10 説明会参加の有無別出身高校地域

$\chi^2 = 482.934$ $df=21$ $P=0.000$
 ※ R4のみ：令和4年度のみ説明会参加者
 R4 + R5：令和4年度と令和5年度説明会参加者
 R5のみ：令和5年度のみ説明会参加者

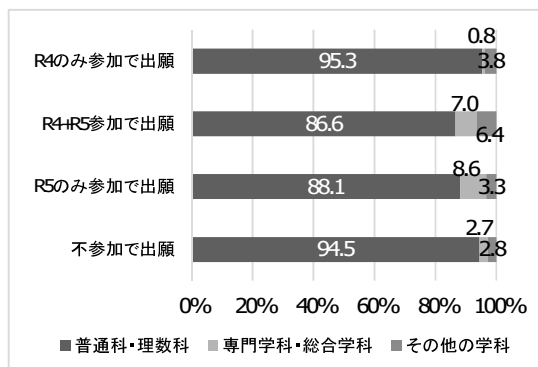


図11 説明会参加の有無別高校の学科

$\chi^2=110.360$ $df=6$ $P=0.000$
 ※ R4 のみ : 令和4年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和4年度と令和5年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和5年度のみ説明会参加者

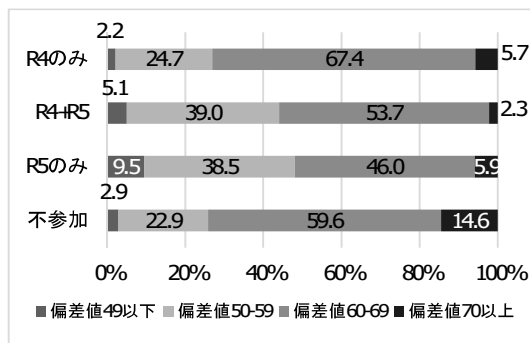


図12 説明会参加の有無別高校の偏差値

$\chi^2 = 312.650$ $df=9$ $P=0.000$
 ※ R4 のみ : 令和4年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和4年度と令和5年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和5年度のみ説明会参加者

4.2 志願者の説明会参加の有無と合否の状況

次に合否別で見た時に差異があるかどうかを確認する。出願者の説明会参加の有無別合否は図13のとおりである。令和4年度のみ、令和4年度と5年度両方参加、令和5年度のみ参加、どの年度においても合格が3割程度と参加者、不参加の出願において、合否に差はなく、有意差もなかった。説明会の参加は合否において影響はなかった。

入試区分別の説明会参加の有無別合否については図14のとおりである。前期日程においては、令和4年のみ説明会参加で合格をしている割合が54.2%と他の選抜よりも高く有意

差があった。後期日程では、すべての年度において、説明会に参加していても不合格だった割合が高く、有意差があった。学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱは、令和4年度と令和5年度両方参加、令和5年度のみ参加の合格者の割合が、説明会不参加者の合格の割合よりも高かった。説明会に参加して受験した者は、ある程度合格に寄与していると思われる。総合型選抜においては、説明会に参加しているが、合格した者は3割程度と、学校推薦型選抜に比べると低かった。総合型選抜は説明会不参加の割合は低い(図9)。出願者のほとんどが何等かの説明会に参加をしているが、合格への影響は少なかった。総合型選抜受験者は比較的偏差値帯の低い志願者が多く、多くの受験者は説明会に参加し、自身に有益な情報を携えて受験に挑んでいる。総合型選抜受験者が説明会に参加することで、有益な情報を得られるような内容を検討する必要がある。

このように、全体での説明会参加の有無別合否で見たときに、合格と不合格に年度別による説明会参加に差異はなく、有意差もなかったが、入試区分別で確認してみると、前期日程と後期日程において、有意差があり、選抜によっては、説明会の参加が合格者にとってある程度意義のあるものであることがわかった。

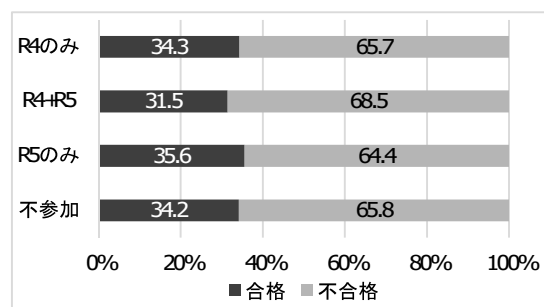


図13 説明会参加の有無別合否

$\chi^2 = 2.053$ $df=3$ $P=0.561$
 ※ R4 のみ : 令和4年度のみ説明会参加者
 R4 + R5 : 令和4年度と令和5年度説明会参加者
 R5 のみ : 令和5年度のみ説明会参加者

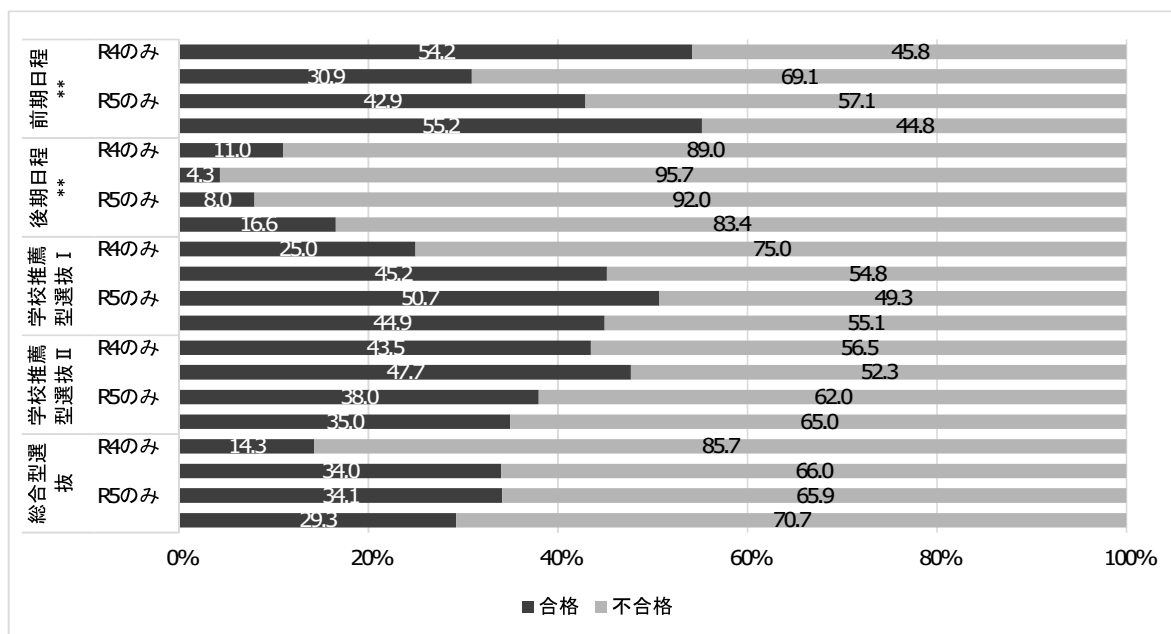


図14 入試区分別参加の有無別合否

※:P<0.05 **P<0.01

※ R4のみ：令和4年度のみ説明会参加者
R4 + R5：令和4年度と令和5年度説明会参加者
R5のみ：令和5年度のみ説明会参加者

5 まとめ

山口大学の説明会参加者は、令和4年度のみ説明会参加者の出願率は非常に低かったが、令和4年度と令和5年度の2年連続で説明会に参加している者の出願率は高かった。2年連続で説明会に参加している学生は、山口大学への興味・関心が高く、出願へと繋がっていくため、最初の年度で関心を持った学生がそのまま出願へと向かわせる魅力ある広報が必要である。また、令和4年度のみ説明会参加で出願した者の偏差値は、他の説明会参加で出願した者の偏差値より高かった。専門学科等の学生は大学選択を3年次に行い、説明会に参加している。そのため、令和4年度は普通科の学生が多い。高校では、3年生のみならず、1・2年生を対象とした進路ガイダンスを行っている。そのため、普通科の学生の参加が多く、偏差値も高くなったと推測する。

学校推薦型選抜において、説明会に参加し出願した者の合格率が高く、説明会への参加が有効であったが、総合型選抜の合格率はそれほど高くなかった。専門学科・総合学科は偏差値が普通科よりも低い分、説明会に参加をし、大学からの情報を得ることで少しでも受験を優位に進めるよう努めている。今後は総合型選抜受験者にも有益な情報を届ける工夫が必要であると考えます。

また、コロナ禍からオンライン説明会を開催している。説明会参加者の確認をすると、全国から説明会に参加をしていることがわかった。コロナ禍以前と比べて地域による出願の傾向が変ってきているのか、オンライン説明会を開催することによって、遠方からの出願が増えているのかの検証は行っていない。今後の課題として捉えている。

(入試課 主任)

(アドミッションセンター 准教授)

【注】

- 1) イベントの詳細は竹本らの論文（竹本ら，2023;37）に記載済みである。
- 2) この2つのデータを氏名と出身高校コードを組み合わせ、繋いだ。さらに志願者データをベースとして同様の項目で紐づけを行った。

【参考文献】

文部科学省，2024，令和6年度学校基本調査（確定値）について公表します。

https://www.mext.go.jp/content/20241213_mxt_chousa01-000037551_01.pdf

（2024.12.20取得）

一之瀬 博・平井 佑樹，2023，「コロナ禍における信州大学アドミッションセンターの対面型入試広報活動の分析－WEB進学相談会及びミニオープンキャンパス実施の成果－」『大学入試研究ジャーナル』第33号，7-12.

旺文社教育情報センター，2024，「人口減と大学入学－真の「大学全入」は2035年か！？~~2024~~年は「入学定員」と「受験生がニアミス！

https://eic.obunsha.co.jp/file/educational_info/2024/0805.pdf（2024.12.20取得）

竹本真理恵・林寛子，2023，「山口大学入試広報の効果測定－説明会参加者の追跡調査にみる志願者の状況－」『大学教育』第21号，36-45

山口大学アドミッションセンター，
2024，「大学受験時の状況に関する調査報告書 2024年度」

みんなの高校情報，

<https://www.minkou.jp/highschool/>

（2024.12.2取得）